

令和元年度 後期授業評価(1年)

伊那北高等学校長

2月13日(木)に実施しました令和元年度後期授業評価における教科及び学年の検討結果は次のとおりです。これらの検討結果を授業改善に活用してまいります。なお、個人情報に関わる記述等については記載していません。

【質問項目】

- | |
|---|
| (1) 授業の進度はあなたにとってどうですか。 (①速い→⑤遅い) |
| (2) 授業内容の説明や板書の仕方、指示の出し方はあなたにとって分かりやすいですか。 (①大いに思う→⑤全く思わない) |
| (3) 出される課題や宿題の量はあなたにとって適切ですか。 (①多い→⑤少ない) |
| (4) 授業で使用するプリント・教材や器具などは、あなたの授業内容の理解に役立っていますか。 (①大いに思う→⑤全く思わない) |
| (5) あなたは意欲的・積極的に、集中して授業に取り組みましたか。 (①大いに思う→⑤全く思わない) |
| (6) あなたはこの授業のための予習や復習、提出課題等をしっかりやりましたか。 (①大いに思う→⑤全く思わない) |
| (7) あなたはこの授業を通して、この科目に対する興味関心が深まりましたか。 (①とても深まる→⑤全く深まらない) |
| (8) あなたはこの講座の授業を通じて、自分の頭で考え自ら学ぶ力が身につくと思いますか。 (①大いに思う→⑤全く思わない) |
| (9) 総合的に考えてあなたが満足できる授業ですか。 (①大いに思う→⑤全く思わない) |

【R元後期授業評価 教科および学年による考察(1学年)】

国語

◆現代文 ◆古典

引き続き満足度の高い授業を行うことができている。特に、「意欲的・積極的に、集中して授業に取り組む」「自分の頭で考え自ら学ぶ力が身につく」の項目は高い評価となった。今後も生徒の思考力・判断力を伸ばす指導をしていきたい。一方で、予習や復習、課題への取り組みで否定的な回答がやや増加しているため、生徒が意欲的に学べるような指導を行ってきたい。

地歴公民

◆世界史

生徒の満足度は普通以上の割合が高い。課題を与えて生徒たち自身に解かせるという学習を導入できるよう、今後は考えていくべきか。進度の面では問題は無さそうである。

◆現代社会

生徒の満足度は普通以上の割合が高い。予習の部分での他教科に比べてそれほど負担となっていない分、授業での取り組みに集中してほしいと考える。

数学

◆数学ⅠA

前期の結果と比較し全般的に④⑤が減少している。特に(7)(5)は半減しており、数学に対する興味関心が深まった生徒が増加していると考えられ、概ね意欲的・積極的に授業・学習に取り組んでいたと思われる。ただし(6)は④⑤が減少しているものの、まだ家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が見受けられる。引き続き、課題等に積極的に取り組める環境を整えていきたい。

情報(理数科)

◆情報

生徒は概ね満足しているが、情報活用能力を養っていけるように改善していきたい。

理科

◆化学基礎

授業進度が速いという回答が少し多く見られたが、来年度の授業の組み方(通年2単位)で解消されることを期待する。授業のわかりやすさの評価についてはやや両極的な回答に分かれている。この点についても、来年度より担当教員の中で教材を共有することで解消したい。

◆理数化学

前期に比べて進度や内容に対する満足度が減った。専門化学に入ってから難易度が上がり、進度も速くなったためだと思われる。化学基礎の授業は簡潔で分かりやすいものを今後も追求し、専門化学に時間をかけたい。

保健体育

◆体育

概ねどの項目も良好な結果と捉えている。予習・復習や課題に関して教科として出しているわけではないが、実生活における健康、安全のとらえ方や生涯スポーツの一環として取り組んでくれることを今後も期待したいと考える。授業への集まりもよく、準備体操もしっかり行うことができているが、学年が上がるにつれペースになっていく傾向があるので、注意しながら指導したい。

◆保健 概ね良好な結果と捉えている。また、実生活と絡めた展開ができていると考える。心身の健康の捉え方やストレスなどへの対処法を自主的に考えられるようになって欲しい。
芸術
◆美術 良好な結果ととらえている。応用的な学習が増えたが、前向きに取り組む生徒が多く、感心している。
◆音楽 概ね生徒が納得できる授業となっているととらえている。ただ、前期の授業評価と若干傾向が異なる部分もあり、この数字だけでは読み解くことができない生徒の思いはどこにあったのかをどのように分析すべきか授業内アンケートも踏まえて検討したい。
英語
◆コミュニケーション英語 I 前回と比較すると満足度はやや上昇し、授業の進捗や指導に関する解答も評価が改善した。授業に慣れてきたためか、予習・復習が甘くなりつつあるので、新年度に備え意識を引き締め学習に取り組むよう働きかけていきたい。
◆英語表現 I 全体として前回の評価よりも改善した結果が出た。扱う内容が難しくなるにつれ、真剣に授業に取り組む意識が芽生えるようになった。下位層の生徒が取り残されないよう提出課題や補習を通してフォローアップを行い、基礎力の定着を確実なものにしていきたい。
家庭科
◆家庭基礎 生徒にとって分かりやすい授業、興味関心が深まる授業となるように、さらに改善点を明確にして取り組みたい。

※ 記入していただいた全ての意見、要望は、各教科・個人にフィードバックして今後の授業改善の参考にします。

令和元年度 後期授業評価（2年）

伊那北高等学校長

2月13日（木）に実施しました令和元年度後期授業評価における教科及び学年の検討結果は次のとおりです。これらの検討結果を授業改善に活用してまいります。なお、個人情報に関わる記述等については記載していません。

【質問項目】

(1) 授業の進度はあなたにとってどうですか。	(①速い→⑤遅い)
(2) 授業内容の説明や板書の仕方、指示の出し方はあなたにとって分かりやすいですか。	(①大いに思う→⑤全く思わない)
(3) 出される課題や宿題の量はあなたにとって適切ですか。	(①多い→⑤少ない)
(4) 授業で使用するプリント・教材や器具などは、あなたの授業内容の理解に役立っていますか。	(①大いに思う→⑤全く思わない)
(5) あなたは意欲的・積極的に、集中して授業に取り組みましたか。	(①大いに思う→⑤全く思わない)
(6) あなたはこの授業のための予習や復習、提出課題等をしっかりやりましたか。	(①大いに思う→⑤全く思わない)
(7) あなたはこの授業を通して、この科目に対する興味関心が深まりましたか。	(①とても深まる→⑤全く深まらない)
(8) あなたはこの講座の授業を通じて、自分の頭で考え自ら学ぶ力が身につくと思いますか。	(①大いに思う→⑤全く思わない)
(9) 総合的に考えてあなたが満足できる授業ですか。	(①大いに思う→⑤全く思わない)

【R元後期授業評価 教科および学年による考察（2学年）】

国語

◆現代文

前期に比べて、ほとんどの項目で肯定的な回答が増加した。特に項目(8)の肯定的回答の増加は、単元の中で思考力を問う活動を行ってきたからだと考えられるため、今後も継続して行っていきたい。また項目(6)も改善しつつあるものの、依然として否定的な回答も多いため、生徒が意欲的に学べるような指導を行っていきたい。

◆古典

前期に比べて、ほとんどの項目で肯定的な回答が増加した。特に項目(8)の肯定的回答の増加は、生徒主体の活動や生徒同士での問題解決の場を設けたためだと考えられるため、今後も継続して行っていきたい。項目(6)には依然として課題があるため、予習・課題への声かけを行い、生徒が意欲的に学べるような指導を行っていきたい。

地歴公民

◆日本史

意欲的に授業に取り組んでいるという生徒からの答えにはこちらも感謝したい。時間的な制約や受験に向けた進度を重視しながら授業を進めていく中で、プリントの理解や授業への集中が高まっているという回答にも好感が持てた。教科書の分量など学習内容は多いが、今後もさらなる改善を目指したい。

◆地理

選択科目の中で最も受講者が多いが、概ね良好な評価を得ている。データから読み取ったり、判断したりする力を向上させられるよう、さらなる改善を目指したい。

◆倫理

全体的に良好な回答が多かった。この科目を選択している生徒は自覚と興味を持って授業に臨んでいる様子が伺える。今後も生徒の学習意欲を維持し続けられるような授業を展開したい。

数学

◆数学ⅡB

前期の結果に対し、極端な変化が見られたのは、(6)予習復習課題の増加である。数学ⅠAⅡBの復習や数学Ⅲに入っている状況でのアンケートに対し、予習復習ができていないのは、大きな問題である。しっかりと基礎知識を固めることに取り組んでいきたい。

情報（普通科）

◆情報

概ね満足という評価であったが、生徒の能力的にもう少し難易度を上げてよかった。今後さらに情報活用能力を養っていけるよう改善していきたい。

理科

◆物理基礎＋理数物理

昨年度に比べ、興味関心がとても深まった生徒の割合が、13%から30%に増えている。また満足できる授業であると大いに思うという割合が、11%から25%に増えている。授業への満足度は高いが、授業の内容が定着していない生徒も多い。その結果テストで点が取れない生徒も多いのが課題である。（前期とは母集団が違うので、昨年度との比較です。）

◆化学
前期と比べて自分で考え、自ら学ぶ力が身につくと感じた生徒が増え、満足する生徒も増加したことは良い傾向である。一方で予習復習が十分な生徒の数は相変わらずで、進度が遅く感じる生徒も微増した。これから反応速度、平衡、有機化学と難解な分野に入っていくので、難解な単元と易しい単元とでペース配分に気をつけながら、授業を学習の中心とした形で展開していきたい。
◆普通科生物+理数生物
前期に比べて全体的な満足度が減った。内容の高度化に伴い、難解な部分を理解できないまま授業が進んだためと思われる。より簡潔な説明と、演習の時間を多めに用意していきたい。また、生徒各個人のさらなる努力も望まれる。
◆地学基礎
前期同様おおむね満足度は高かった。生物の内容と絡めてゲーム形式の学習方法をとったり映像資料も見せたりしたのも満足度につながったのではないかと思われる。一方で「自分の頭で考え自ら学ぶ力」の項目について、引き続き共通テストや新傾向問題に対応できるような、思考力を身に付けさせたい。
保健体育
◆体育
概ねどの項目も良好な結果と捉えている。予習・復習や課題に関して教科として出しているわけではないが、実生活における健康、安全のとらえ方や生涯スポーツの一環として取り組んでくれることを期待したいと考える。特に大きな怪我があったわけではないが、集まりの悪さと準備体操への意識の低さに歯止めをきかせ新年度に臨みたい。
◆保健
概ね良好な結果と捉えている。医療制度、食品衛生、職業生活など今後の実生活をイメージしながらの授業展開を行った。社会を生き抜く力の一助となっていることに期待したい。
芸術
◆美術
個々の生徒の課題に沿った学習を進め、良好な結果を得られたと考えている。
◆音楽
良好な結果ととらえている。少人数講座であることを生かし、生徒一人ひとりと対話をしながら授業を進めていきたい。
英語
◆コミュニケーション英語Ⅱ
全般的には、満足がいく授業ができているように思われる。しかし、特に英語の苦手な下位層の生徒への更なる対応の必要性が考えられる。また、新テストに向けての対策を万全にし、生徒の進路選択の希望に応えられるよう基本を大切に、速く正確に英文を読み取るよう指導して、この科目への興味関心が深まるような授業をしたい。
◆英語表現Ⅱ
後期に入りテキストを英文法総合1冊にしたことで、全般的に前期より授業に満足している生徒が増えたように思われる。しかしコミュニケーション英語同様、下位層の生徒に対する更なる対応の必要性が考えられる。今後は特に苦手意識が強い英作文の授業を創意工夫し、自然な英語を書くことができるよう指導していきたい。

※ 記入していただいた全ての意見、要望は、各教科・個人にフィードバックして今後の授業改善の参考にします。

伊那北高等学校
担当 松村 真一 (教頭)
電話 0265-72-2221
FAX 0265-76-8969